

平成 28 年度事業計画書

(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

平成 28 年度は、法令、定款の順守、透明性の確保（情報開示）を念頭に自己責任に基づく健全で安定的な経営の維持を目指すことにより、広く公益の実現に貢献し、社会からの期待に相応しい事業運営の基礎を確立していく。

事業活動については、引き続き「遊んだり泳いだりするのに適した河川や湖にする」という目標を掲げ、琵琶湖・淀川流域の水質・水環境保全分野における諸課題の解決に向けた調査研究、広報啓発、活動支援事業を実施していく。

1. 水質保全調査研究事業（自主）（予算額 10,000 千円）

◆ 生活環境保全対策・健康リスク問題に関わる調査研究

流域における水質問題、および、流域が一体となって取り組むことで効果的かつ効率的な課題解決や対策を目指した調査研究を進めている。公共用水域の汚濁負荷の削減対策、発生源の挙動および量的把握等の検討、また、琵琶湖・淀川流域全体を捉えた長期的な変化の図化ツールを有効活用し、更なる解析検討の推進や難分解性有機物に関する問題など、今後の水系水環境保全と管理を目指した流域の関係機関や担当部署との連携方策について取り組んでいく。

2. 水質保全啓発事業（予算額 1,846 千円）

琵琶湖・淀川流域の水質保全を住民や行政と共に一体となって推進するための広報・啓発事業として「流域の水環境保全のための情報収集・発信」、「流域住民の水質保全活動への普及啓発・連携」を行なう。主な実施項目は下記のとおりである。

◆ 流域の水環境保全のための情報収集・発信

流域住民、市民団体、行政、研究・教育機関など幅広い層による流域水環境改善のための取組みに資することを目的に、情報の共有化や利活用を推進する学術

的情報ツールとして、あるいは、琵琶湖・淀川を身近に感じ、地域の水環境を流域全体として理解してもらうための水環境情報をわかりやすく紹介した冊子等、様々な水環境保全のための情報発信の作成に取り組む。

実施項目

「BYQ 水環境レポート」

流域全体の水環境データ・情報を収集し、研究機関や行政機関、一般住民等に供するための情報誌を発刊するとともに、Web 上で公開する。

「琵琶湖・淀川 里の川をめぐる情報誌」

琵琶湖・淀川流域内の河川に関する歴史や見所、水質などを紹介する冊子を発行・配布し、流域住民の水環境への関心を高めていく。

「研究成果の発表及び情報収集」

水質浄化研究所における調査研究の成果を国内外の学会等で発表することにより、広く成果の共有を図るとともに情報の収集に努める。

◆ 流域住民の水質保全活動への普及啓発・連携

流域住民自らが身近な水辺に接し、その水環境のあり方を考え、水質に興味をもってもらうインセンティブ創りを目指した現地調査や、流域一体となった水質保全対策を推進するために、水環境改善に関わる人たちの情報交換や連携の推進に取り組んでいく。

主な実施項目

「WAQU2 調査隊による水質調査」

身近な河川等の水質を流域住民自らが調べることで水環境の関心を高めていく。

「BY スタンプラリーの実施」

市民団体の水環境改善活動への参加や水関連施設の見学を通じて、流域市民の水環境改善活動への参加及び団体間の連帯感の向上を促す。

3. 水質保全活動支援事業 （予算額 10,703 千円）

◆ 水質保全研究助成

琵琶湖・淀川流域における水質保全上の先駆的な課題を解決することを目的に、BYQ が設定する研究テーマに沿った研究に対して助成を行う。

【募集研究分野】

- (1) 琵琶湖・淀川流域における微量汚染物質・病原性微生物の動態把握・影響評価・制御技術に関する研究
- (2) 琵琶湖・淀川における流域水環境管理のための水質指標とその監視・解析評価に関する研究
- (3) 琵琶湖・淀川流域における閉鎖性水域の富栄養化・底質改善対策に関する研究

◆ こども水質保全活動助成

琵琶湖・淀川流域で生活する小学生から高校生の年齢の子どもたちの水質保全活動に助成を行い、次世代の水質保全活動の担い手の育成を進めていく。

【助成対象活動】

「水環境について知り、理解する活動」、「水質の保全・改善に関する活動」で、次の視点や内容を満たす活動

- (1) 琵琶湖・淀川流域をフィールドとした体験的な学習活動が含まれること
- (2) 上流・下流のつながりなど広域的な視点があること
- (3) 今後の水質保全活動の参考となるような創意工夫があること